

平成27年度研究のまとめ

本年度は、教科を算数科にしぼって「進んで考えを伝え合う授業づくり」を行った。各学年は、下記のように多様な実践上の工夫を行った。

	(視点1)教材とのかかわり	(視点2)友達とのかかわり	(視点3)自分とのかかわり
1年	・意欲を持って取り組ませる課題の焦点化 ・具体物を用意し導入時活用	・操作を協力してさせたり、自分の考えを話す場面でも二人で補い合わせたりする	・板書の算数用語を用いて考えを発表させる ・操作活動のときに板書の用語を使って確かめさせる
2年	・一人一人に手元で具体的に操作をさせる ・実物投影機で自分の作った形を映して見合わせる	・理解しにくい事柄でも友達と考えを伝え合わせる ・視覚的に捉える教材の提示	・挙手式の簡潔な振り返りをさせる
3年	・見通しを持たせることができる問題提示 ・体験的な活動の工夫	・自分の考えを持てた場合には、少人数で伝え合わせる	・「分かった」を児童自身に確認させる適用問題 ・学んだことを文でまとめさせる
4年	・前時までの課題と違う点を明確にして提示 ・視覚的に捉えることができる教具の工夫 ・初発の問題を既習問題	・短時間で多くの考えを出させることができるホワイトボードの活用 ・T1、T2が役割分担を決める。個別指導を分担する	・評価の観点を明示し、自己評価させる
5年	・導入で既習の学習内容を再確認させる ・児童の関心を引く教具提示	・一人に1枚ボードを準備し友達にクイズ形式でプレゼンテーションさせる ・ペア学習で活用したボードを全体で共有	・自分の考えを図だけではなく、言葉を使ってボードに書かせる
6年	・生活場面から学習課題設定 ・一人一人に短冊を出し合わせる活動	・自分の考えを明確にさせたり新たな考え方に触れさせたりするペア等での活動	・本時の学習を振り返る時間を設け、それを次時の導入につなげる
特支	・模擬レストランやごっこ遊びでの活動 ・繰り返し活動させる計画 ・個人の目標に即した活動 ・実際に使う場面の設定		
ことば	・身近な教材や教具を使用 ・視覚的な教材の提示	・相手、目的意識を持って取り組ませる ・児童にとって身近な存在を登場させる	

表1 研究の視点からみた指導の工夫

上記の表から研究の視点ごとにまとめる。

視点1「教材とのかかわり」でのキーワードは三つ。第1に「課題の焦点化」第2に「視覚的な教材提示と具体的な活動」第3に「前時とのつながりと本時の見通し」である。本時のねらいや学習内容に合わせて、この三つのキーワードのどれが重要か捉え、学習をコーディネートできた。

視点2「友達とのかかわり」では、具体的な提案として相手意識を持たせるため「クイズを出させる活動」「ペアで使うホワイトボード」「視覚的な教材による個人思考」等が実践された。授業研究以外の単元、教科でもここでの成果が生かされたとの報告も多かった。

視点3「自分とのかかわり」では、「算数用語を使った振り返り」「適用問題を工夫することによる振り返り」「ことばを使った振り返り」等を、一単位時間で行うように工夫し、次時につなげることも提案された。つまり、「見通す」とことと「見直す」ことを有機的にコーディネートすることである。「子ども達のことばで授業が見通され、子ども達のことばで授業が見直される授業」の構築が始まった。

一方、次のような実践上の課題も得ることができた。

授業段階	課 題
導 入	①本時の課題につながるような前時の復習にすることが必要 ②実物投影機を図形の学習に使用するときには、注意が必要 ③仲間分けの観点がいろいろ出てきた。どこまでを「形で分けた」と認めるか ④明らかに指導者の意図と違う観点で仲間分けをしている児童にどう対応するか ⑤既習事項の振り返りに時間をかけ過ぎる
個人思考	①考えが持てない児童が多い時はストップして見通しを持たせる必要がある ②操作活動の前に考える時間をとることが必要 ③表に図、裏に考え方を書かせたため、机間指導で回っている時に児童がどのような図を使って考えたのかを確認しづらかった ④考えを書く時間が少なくなるので、箇条書きやポイントだけを書かせる
ペアや グループ活動	①考えをまとめられないペアが出てしまう ②互いに協力する姿が見られず一人ずつで作業するところがある ③友達の考えを生かして問題を解かせることで多くの考え方をつかませる
共有化	①多くの考えが出た場合、教師が要点を絞って簡潔にまとめていく必要がある ②全体で共有する時の教師の関わり方・もっていき方を今後も考えていきたい
ま と め	①適用問題と自己評価の時間の確保 ②自己評価を取り入れたところ、少し評価が甘くなった
そ の 他	①時間が足りなくなりがち→問題の出し方や、数値の工夫 ②レベルアップした問題に取り組みたいという要望への対応 ③“やりたい”“こうしたい”という思いが出たことは良かったが、事前に適切な学習計画を立てて指導にあたることも重要だということを再確認 ④ボードを使った学習形態にまだ慣れていなかったため、継続的な指導が必要

表2 今後に残った実践上の課題

導入や個人思考の段階について、知見を広めることができた。「本時の主たる学習活動のための導入であることを認識する」「課題の焦点化と個人差への対応をコーディネートする」「視覚的な教材開発と操作的な算数的活動を熟考する」今後もこの3観点を大切にして授業を作っていきたい。

「話し合いになりづらいペアやグループの分析、考察と指導」「共有化を効果的にコーディネートするためのポイント」は、実践を通して引き続き具体的に考えることが必要であることも浮かび上がってきた。

〈授業改善の視点から〉

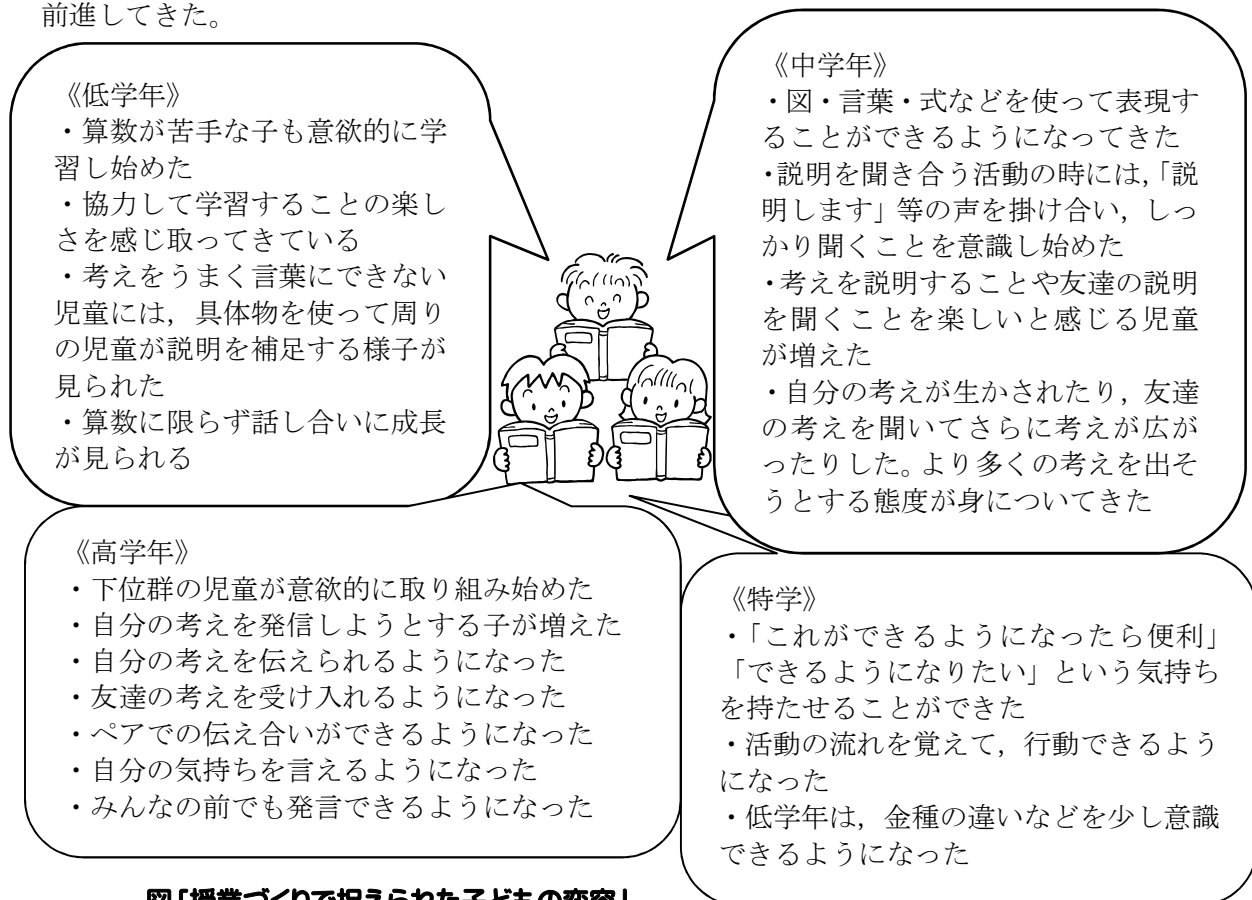
算数科の一教科に絞って授業を見つめてきたことで、成果も課題も具体的なことばでまとめられた。以下に示された「授業が変わったところ」を今後も大切にしていきたい。また、他教科においても意識して取り組みたいポイントになっているのではないと思う。

	授業が変わったところ
1 年	・視点に沿っての授業づくりにより「ねらい」が明確化され、指導過程の工夫・授業で使用する物が明確になった。 ・ねらいへ迫るためのペア学習の取り入れ方について授業をつくっていく中で試行錯誤し、他の教科でもペア学習のさせ方を工夫するようになった。
2 年	・TTの指導体制により児童の考えを拾っていく上で、教師の目の届かない子供たちの考えやつぶやき、間違いなどをすくい上げ、授業を構成する上で生かすことができた。 ・一人一人が大事な用語や指示・学習内容を確実に理解しているか確認しながら学習を進めるようになった。 ・実物投影機の使用、具体物の操作等、視覚的に捉えながらの学習が2年生児童にとって大変有効であった。
3 年	・視覚的に捉えられる図や教具を使用したり、課題提示の仕方を工夫したりして、児童がしっかり課題を捉えることができるよう工夫するようになった。 ・いろいろな場面で、ペアで話し合う活動を多く取り入れるようになった。 ・問題解決の時間でも、まとめの後に適用問題を入れることを意識するようになった。

4年	・導入時は、全員が取り組める既習事項や簡単な問題、興味の引く課題から入ったり、前時との違いを明確にして課題を提示したりしている。 ・視覚的に捉えられるような図、教具を工夫している。(パソコンを使った教科書の提示) ・一人一人の考えを生かすことで多様な考えを出し合い、その中から算数的により有用な考えに導いていく流れを意識している。
5年	・一人に1枚ずつボードを持たせたことで、多様な考え方を知ることができた。 ・ボードの活用や課題提示の工夫によって、学習意欲を喚起することができた。
6年	・流れを押さえて子どもの思考で授業を作れるよう努力するようになった。 ・意識的にペア・グループでの学習を取り入れようと努力するようになった。 ・子どもの発言を組み込んで授業のねらいに迫るようになった。 ・授業の中で押さえるべきポイントを子どもに伝えることを意識するようになった。 ・他教科でも子ども同士の交流の場面を意識し、学び合いの場につながった。 ・「子ども同士の学び合い」「子どもの声から授業を創る」「子どもの発言からねらいに迫る」ような組み立てを目指すようになった。
特学	・模擬レストランでの学習は、雰囲気作りができたことと、自分の作った物が運ばれてくことに期待が高まり子どもたちも意欲的に活動した。 ・金銭に関する学習内容は、直前や単元が始まってからの算数の時間に学習を進めた。子どもたちにとっても、机上の学習と体験活動を交互に繰り返すことができた。
ことば	・通級指導で学習したことを、学級等の集団生活で活かせるように、意識するよう心掛けようとした。

表3 研究によって授業が変わったところ

「授業が変われば子どもが変わる」を信念として、3年間、授業を直接見直す研究に取り組んできた。教師にとって「授業は人生そのものだ」といわれる。それを互いに見合い、検討し、改善を求める研究であったので、痛みを伴うこともあった。しかし、「研鑽なき者は教師にあらず」を地で行く研究同人に支えられ、3年間の下記に見られるような子どもの育ちを頼りに一歩ずつ前進してきた。



図「授業づくりで捉えられた子どもの変容」

平成 27 年度 校内研究のあゆみ

月	日(曜)	対象	授業者	内容：単元名
4	10(金)	推進委員		・第1回研究推進委員会：校内研究と校内研修の具体
5	18(月)	全員		・職員会議：サブテーマの決定
6	12(金)	推進委員		・第2回研究推進委員会：各学年の研究計画の検討
	16(火)	1人1授業		4年生「わり算のしかたを考えよう」
	23(火)			
	26(金)	全員		・第一回全体会「各学年の取組と今後の見通し」
7	1(水)	1人1授業		4年生「わり算のしかたを考えよう」
	2(木)			3年生「あまりのあるわり算」
	6(月)	全校授業		
	15(水)	1人1授業		
8	20(木)	推進委員		・第3回研究推進委員会：研究の推進状況確認
	21(金)	O J T		テーマ「新スキャナーの活用」
		全員		・教育課題研究協議会伝講会
9	2(火)	1人1授業		1年生「どちらがながい」
	4(金)			
	8(火)			
10	2(金)	1人1授業		2年生「形をしらべよう」
	5(月)			
	6(火)	全校授業		
11	16(月)	1人1授業		6年「順序よく整理して調べよう」
	17(火)			
	18(水)			
	20(金)			
	27(金)			ことばの教室「自立活動」
12	1(月)	O J T		テーマ「これからの道徳教育」 道徳の教科かで変わること？変わらないこと？知りたいこと？
	2(火)	校内研修		特別支援研修:相馬潤子先生 「学校・学級において配慮が必要な子どもへの支援について」
	2(水)	1人1授業		5年「面積の求め方を考えよう」
	7(月)	全校授業		
	8(火)	1人1授業		
	11(金)			6年理科「水溶液の性質とはたらき」
	14(月)			自立活動「買い物に行こうⅡ」
2	1(月)	研究推進		・第4回研究推進委員会：本年度の研究のまとめと全体会について
	16(火)	全員		・研究全体会：来年度の研究の方向性について